

特42

823

繪本 岩見武勇傳 全

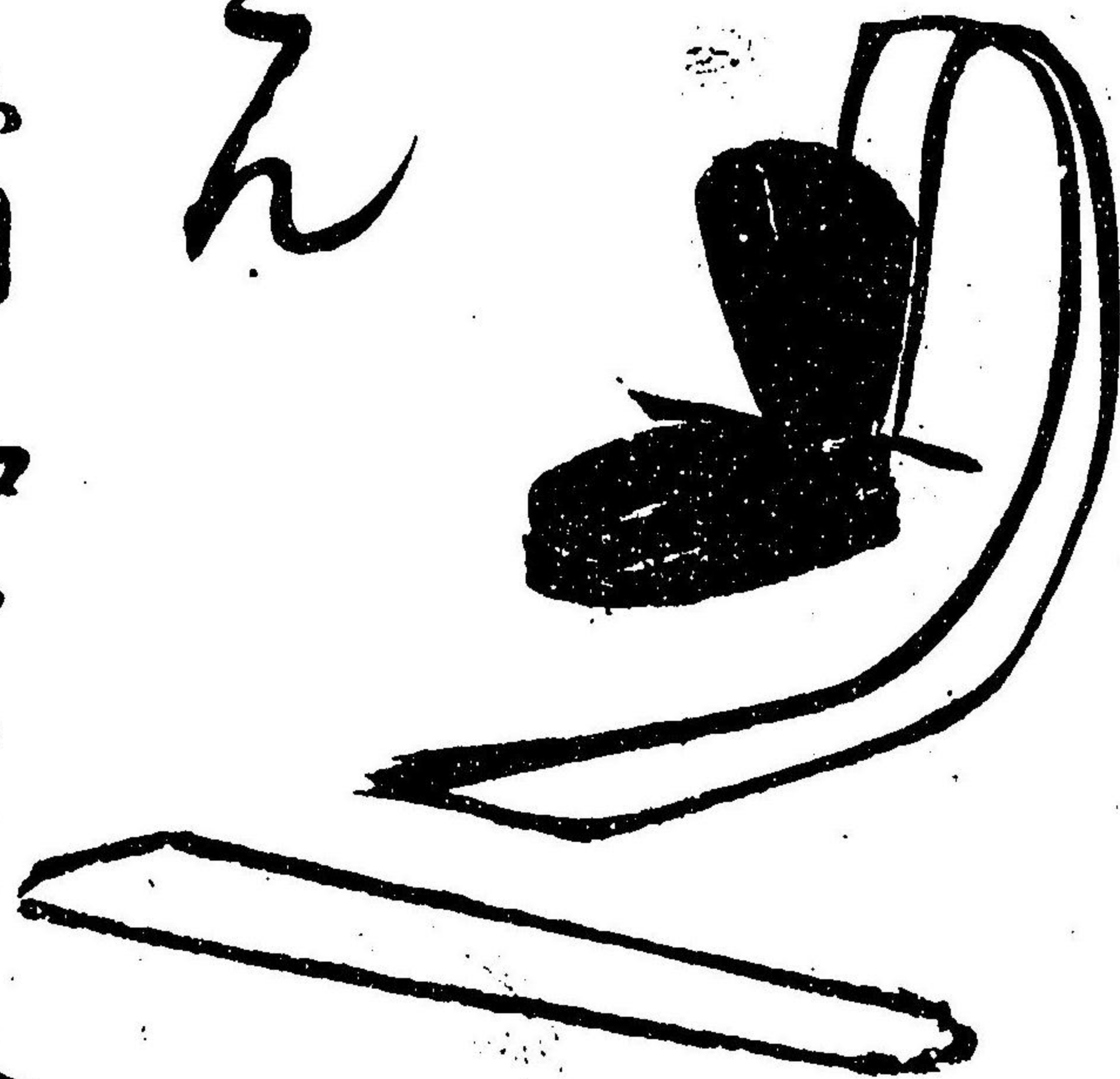


No 5638  
23



小

祝  
起  
ん



真國 加賀吉版



岩見十太郎

日野六之助

お休子



工傳坊



岩見十太郎





の御徳を  
百石を賜  
る事あり  
兄弟を  
云々  
大船の  
頭  
衆  
あり  
重太郎

**廣瀬軍藏**

て不構ざるを重太郎の  
之を幸ひと自ら阿房と  
ありて心お能き師次へ

あひ嫌  
種  
論  
聞  
せ  
も  
う  
ざ



の城主小早川家  
の事跡を  
岩見重太郎  
仇討を  
前代未聞  
橋立  
後園天  
中丹  
正年  
活世天  
殿下の

**岩見重左門**

十二歳に成る  
父重左門  
刃術  
子相  
思  
ん  
ん  
あ  
れ  
道

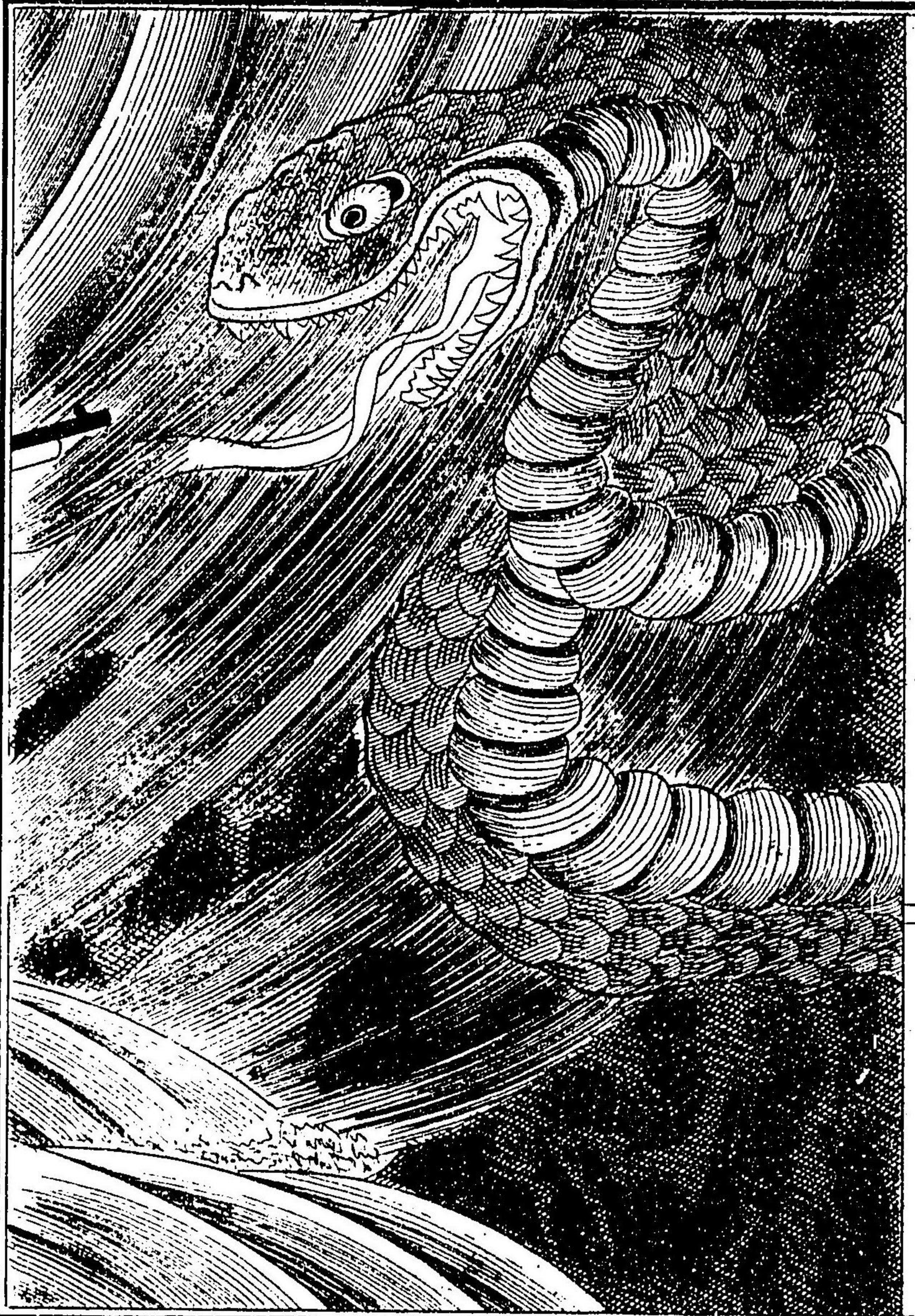












三浦屋

療まきくの百積

さび濟すべき術も

泣々も太平夫婦小

相談一字

都宮ふる

三浦屋へ身を賣りおして

心の内兄重太郎を尋ねて居

りり叔も岩見重太

郎の諸國を巡り興

州の澤お来り小浪

裁と合し

夕暮を打

勝ち暫く因



浦屋を  
立退  
れより  
太郎  
城後  
お

道不迷  
て深山



兄と  
の横  
無念  
の  
少

助  
南  
部  
虎  
之

大  
の  
内  
を  
差  
覗  
く  
彼  
武  
士  
大  
少  
の  
娘  
を  
助  
け  
治  
村  
民  
の  
災  
厄  
を  
除  
き  
夫  
より  
若  
狭  
小  
至  
る  
山  
中  
お  
て  
一  
個  
の  
武  
士  
小  
出  
合  
せ  
の  
内  
を  
差  
覗  
く  
彼  
武  
士  
大  
少



一若也も非なく抜合を誓ひて戦ひしに  
 更も勝負のつうされぬ成武士の詞をうけ壯士  
 誓く身を止めよ我木さ御辺が如き其願 小出合  
 事ありしは貴殿の何人あるや我の 加藤左  
 此殿の臣増田右工門直之ありと 礼を  
 本々然るぬ内此方が飛ぶさつて ぬ  
 あし我が身の為にお大恩人知り ぬ  
 事として人の失敬偏に用 ぬ  
 小預りしは其事の ぬ  
 島の城主小早川の ぬ  
 臣若見重左工門の ぬ  
 次男重太郎と申 ぬ  
 者日外 ぬ

詞をつらへ左右に  
 事斯くと兄  
 と妹の成行を  
 語れば團右工  
 門の其命を歎  
 さ仇討の時至り  
 及びすあから助  
 其後の  
 がと  
 不盡し  
 礼の詞  
 高恩御  
 兄妹の  
 ため  
 御身の



大カヤんと  
 列れり重太郎は丹後の國へ  
 中宿松原に新小出合試合の上兄弟  
 を結ひり此植松が咄し丹後宮津  
 中村式部少輔此度名島浪人赤堀主膳鳴  
 屋監物大山双四郎といふ三人の劍客を托  
 けし御身が身ぬる敵ありんといふに重太郎  
 大いなき急ぎ宮津小至るも果し大川廣瀬徳  
 水の三人が行進の飛りつて討んとせし  
 事あつめ一先宿を  
 行へ仇討の  
 人をも

自母自母  
 自母自母



明治廿三年九月十五日印刷  
 日本橋區吉川町五番地  
 著作兼 発行 者 堤 吉 兵 衛

新編西國奇談

廿編より  
 追々出版

薄緑娘志づなみ

八編より  
 追々出版

娘庭訓黄金の鶏

追々出版

御届 神田區仲町一丁目六番地

明治 年 月 日

編輯人 篠田久次郎

地本錦繪問屋 堤 吉 兵 衛

日本橋區吉川町 出版人

五番地

